

子どもの貧困について考える

地域福祉推進を考えるセミナーを開催

地域生活施設協議会・更生福祉施設協議会の共催による第13回の本セミナーは「子どもの貧困〜貧困から生じる子どもの生活課題にどう立ち向かうか〜」をテーマに、去る11月17日に開催しました。

現場報告「ルポライターから見た子どもの貧困とは」で、母子家庭のネグレクトによる事件等の取材を続けてきた杉山春さんは、子どもの貧困の背景には、社会とながってみたいと人一倍願いながらも、困難な生活課題に直面しているからこそSOSを発信できず、社会から孤立していく母親の心理・社会的な状況があると説明しました。そして、民生委員児童委員などの支え手は、母親が困っていると感じた自分の五感を信じ、周囲にも相談をしながら、手を離さずについてほしいといったお話がありました。

実践報告では、2施設より報告をいただきました。母子生活支援施設カサ・デ・サンタマリア施設

長の宮下慧子さんからは、「子どもの貧困と地域福祉」をテーマに、次世代への貧困の連鎖を断ち切りたいという考えのもと、入所世帯への働きかけだけでなく、地域で暮らす母子家庭に対しても生活を立て直すことを働きかけるアウト



民生委員児童委員・福祉施設従事者・社協・行政職員など参加者285名が、現場報告・実践報告を熱心に聞いていました

第14回地域福祉推進セミナー

【日程】 平成28年3月25日 午後1時30分から4時  
 【テーマ】 アルコール依存症の回復への道のり  
 【会場】 県社会福祉会館2階 講堂

リーチが重要であること、そのためには地域で支援活動を行っている方にも母子生活支援施設を知ってほしいというお話がありました。さらに、川崎市桜本で子どもから高齢者まで相談・支援活動に取

り組む、川崎市ふれあい館の崔江以子さんからは、「外国人ゆえの孤立・子どもの貧困に寄り添いながら」と題して、在日外国人ゆえの生活課題とふれあい館の実践についてお話しいただきました。

ふれあい館のスローガンでもある「誰もが力いっぱい生きられるために」必要な時に必要な情報を分ける言葉で得られる環境を整えることの大切さ、支援者へのメッセージとしてちよつとした手伝い・あいさつ・おせっかいで幸せに一步步近づくと家庭があることなどが伝えられました。

最後に、地域生活施設協議会会長（横須賀基督教社会館）の岸川洋治さんは、想定外の出来事が起こっている社会で、私たちは今までは違う想像力・スキルアップが必要であること、乳幼児からのライフステージで切れ目のない支援・居場所が必要で、その中で私たちに、どのような役割があるのかを今後も考えていきたいと締めくくりました。

今後地域での課題に向き合い皆さまと共に考える場となるセミナーを企画してまいります。

（社会福祉施設・団体担当）

福祉現場発

福祉施設の仕事や取り組み紹介 映像を公開しています

「神奈川の福祉現場の実際やそこで働く人たちの思い、福祉の仕事の魅力をたくさんの人たちに知っていただきたい」という思いから、本会児童福祉施設協議会、老人福祉施設協議会ではDVDを作成しました。

どちらの映像も約15分間のコンパクトな作りです。学生や求職者への福祉施設の仕事紹介や社会福祉法人の取り組みをお知らせする場面などで、ぜひご活用ください。



■児童福祉施設協議会では、児童養護施設で働く保育士さんの一日を追いながら、子どもの暮らしや職員の動き、施設を巣立った後の交流場面等を紹介。子どもたちの笑顔が満載です。（写真上）

■老人福祉施設協議会では、現場職員の実践発表を行う「かながわ高齢者福祉研究大会」や介護現場の様子を、映像を学ぶ東京工芸大学（厚木市）の学生チームと一緒に作成しました。（写真左）

※この映像は、本会ホームページ(<http://www.knsyk.jp/>)を通じてご覧いただけます。

